



春の緑の募金活動は、「緑の募金でふせごう地球温暖化」をスローガンに、五月三十一日まで行われており、いただいた募金は、水源の森林づくりや緑の少年団の育成、国際緑化事業などに活用することになっていきます。皆さんのご協力をお願いします。



三月一日、阿波市市場町大影の大影小学校跡地において阿波・吉野川両市の小学校四校の五年生百二十四名が二十班に分かれて植樹や炭焼、飯ごう炊飯など様々な体験活動に挑戦しました。当署からは三名の職員が「マイ箸作り」と「森の写真立て作り」を鳴門教育大学生と協

各地の
たより

「阿波麻植文流の森」
での自然体験会

徳島署



学、地元の方などが、自然にふれあう機会の少ない子どもたちにも様々な体験活動を通じて成長してもらおうことを目的に開催さ



力して指導しました。この催しは「とくしま森とみどりの会」吉野川地区委員会（委員長：小笠原阿波市長）が中心となつて本年度より開催されたイベントで、県や市、教育委員会、鳴門教育大

二月二十日、小松島市立坂野幼稚園において園児二十名が木の枝と木の実を使ったオリジナル写真立て作り挑戦しました。

森の写真立て作り

徳島署

当日は天候にも恵まれ、生徒は体験活動に目を輝かせ挑戦し、怪我也無く無事に終了式を迎えました。終了式では「とても楽しかった。他校の友達もできて良かった(児童)」「現地での活動は講義や参考書に書かれたとおりに進まない難しさやもどかしさなどもあり、いい経験ができた(学生)」の感想が聞かれました。



最後に園児全員から労いの言葉と「また、来て下さい」とお見送りを受け帰路に着きました。なお、後日、園児からの心温まるお礼のお手紙を頂きました。



まず、マスケットとなる動物のクマ・イヌを作り、次に写真立ての土台・木の枝や木の

ヘリコプター集材を見学 香川所

二月十六日、高松市立上西小
学校の生徒が、鷹山国有林で行
われている間伐作業の現地を見
学しました。

鷹山国有林は、同小学校から
約六キロメートル上流にあり、
自然休養林に指定されるとも
に、県内唯一の大滝大川（おほ
たきだいせん）県立自然公園の
中核となる区域で、森の巨人た
ち一〇〇選に選ばれた「大屋敷
のケヤキ」もあります。

同国有林では十二月中旬から
二月末までに約一、〇〇〇立方
メートルの間伐材をヘリコプ
ターで集材する作業が行われる
予定で、このことを知った同小
学校から、「生徒にぜひ間伐作
業を見学させてほしい」と申し
入れがあり、森林環境教育の一



環として全
校生徒十五
名で現地見
学を行うこ
とになりま
した。
この日
は、あいに
くの曇り空
で、やや風
も吹いてい

ため、ヘリコプター集材が中
止になることも心配されました
が、国有林を見渡せる場所に到
着する時間には集材作業が始ま
り、生徒たちは、ヘリコプター
が大きな木材を吊って飛ぶ姿に
驚いていました。

その後国有林内に移動し、間
伐の必要性や、間伐材の有効利
用、環境等への配慮のため、ヘ
リコプターによる集材が行われ
ていることなどの説明、樹木名
等の説明を受けた後、間伐が終
了した樹齢約一〇〇年の複層林
施業地や県内で唯一のブナ林を
見学しました。

この日は、木々の先についた
水滴が凍るほどの寒さで、冬枯
れの山を歩きましたが、職員が
新緑の季節、紅葉の季節はとて
もきれいだと話すと、生徒たち
は「その頃にまた来たい」と現
地を後にしました。

屋島で植樹 ボランティア一〇〇名で植樹 香川所

二月二十二日、屋島国有林の
「源平屋島の森」で地元自治会、
ボランティア団体、屋島東小学
校の教員、児童、保護者など約
一〇〇名が参加して植樹を行
いました。



「源平屋
島の森」は、
平成十八年
に市民参加
による森林
整備を行う
ことで郷土
の森林に親
しみを持つ
てもらうこ
とを目的に
植樹を行
いましたが、
雑草の繁殖
や乾燥等で
成長が遅
れ、枯れて

しまった苗木がありました。
そのため、この日は、香川県
森林センターから提供してい
だいた抵抗性マツやクヌギなど
約一五〇本を植えました。

この日の苗木は、雑草の繁茂
に負けないよう一メートル近く
に成長したものを準備したた
め、植え穴も大きく掘らなけれ
ばならず、額に汗して、しっか
りと植えていきました。

遊々の森で植樹

屋島東小学校では、毎年「遊々
の森」で様々な森林環境学習を
行っており、二月二十六日には、
四年生三十四人が「遊々の森・
ドキドキわくわくコース」に植

樹を行いました。

この日はまず、高松森林事
務所森林官から、「森の贈り物」
の紙芝居で森林の持つ公益的
機能や森林の大切さを教わっ
たあと、現地で植樹を行いま
した。

児童たちは、用意されたク
ヌギを植えるために、慣れな
い鋤を使い、一生懸命植えて
いました。植えた木の横には、
児童それぞれの思いを書き込
んだ名札が立てられ、大きく
成長することを願っていま
した。

香川森林管理事務所では、
今後も市民・県民の森として
親しまれるようボランティア
や小学校等と協力しながら屋
島の森林再生に努めていきたく
いと考えています。



高知市立中野保育園で 木工教室 高知中部署

二月二十四日、高知市立中野
保育園にて年長の園児四十一名
を対象に木工クラブ教室を
実施しました。

今年の干支にちなんで、当署
があらかじめ用意した牛の置物
のキットを配ると、子どもたち
は大喜びで作品づくりにとりか
かりました。

しつぽや角、耳といった細か
いパーツをくつつけるのに苦
労する子どももいましたが、手
をポンドだらけにしながも、
かわい牛を完成させてゆき
ました。

一時間あまりの短い時間で
したが、おかしに子どもた





三月二十一日、物部川最上流部に位置する別府山国有林にて、

ふれあいの森で

植樹体験

〈高知中部署〉



のことに興味を持ってもらえることを願っています。

ちから、元気な歌のプレゼントをもらい、クラフト作りを終えました。

この教室を通じて、子どもたちに、木のあたたかみを感じ、森林



一四〇〇本を植樹しました。

「物部川二十一世紀の森と水の会」会員のほか、高知大生や高知工科大生ら、総勢六十七名のボランティアがケヤキの苗木約

現地は事前に地拵えが出来ており、暖かい日差しの中、作業はスムーズに行われました。今回は植える苗木の数量が多かったため、ベテラン参加者をリーダーとした十人一組の班をつくり、初心者への手ほどきを行いながら作業を進めていきました。学生たちは、慣れない手つきでクワを手にしていました。額から汗を流しながら、一本一本に添え木をし丁寧に植えていました。

植栽した箇所は、乾燥や風害の厳しいところで、育つかどうか心配ですが、七月には下刈りも予定しており、今後の苗木の成長を見守っていききたいと思えます。

シリーズ⑥ 四国局の技術開発

『天然林（森林空間利用タイプ）におけるモミ・ツガ等の天然更新技術の確立』

〈森林技術センター〉

四国森林管理局における技術開発の主な取組について、紹介します。昨年度から六回シリーズで紹介してきましたが、今回が最終回です。

【目的】

久保谷風景林は、禰原町の制定した「鎮守の森づくり条例」において後世に残すべき森として指定されていますが、「台風により、モミ・ツガ等の風倒木、枯損木が見受けられ、風景林としての機能の低下が危惧される」との町からの意見があり、現地検討会を開催した結果、「主体となる景観上重要なツガ・モミ・ヒノキは老齢木が多いため、それらの樹種の更新が必要となるが、後継樹となるような稚樹はほとんど成立していない状況では、現風景を維持していくことができ

なくなる恐れがある」とのことから、風景林としての機能（針広混交状態）維持を図るため、天然更新技術の開発に取り組んでいます。

（高知大学・（独）森林総合研究所四国支所と共同研究）

【試験地】

高知県高岡郡禰原町久保谷山

四〇四三と林小班

【試験内容】

高木のモミ・ツガ及び広葉樹により、地表に光が当たらない状態ではモミやツガなどの稚樹が発生・生育する条件が整っていないため、稚樹を発生させるための施業を検討・実施することとし、それに伴う基本データ等の収集等を行っています。

【これまでの試験結果】

試験地のモミ・ツガの稚樹



30cm程度のツガの稚樹

は大変少なく、生育している稚樹については、発生直後、若しくは発生から一〜二年程度の稚樹であり、五年を経過しているような稚樹はほとんどありません。

相対照度と稚樹の関係では、照度が低いギャップでも多く稚樹がありました。五年以上経過しているような大きな稚樹はほとんどないことから、発生後の成長には照度が大きく影響しているのではないかと考えられます。今後は稚樹を発生・生育させるための施業を検討・実施してまいります。